



ASEANとのかけ橋

— 日本語スピーチ発表会



草の根交流が復活

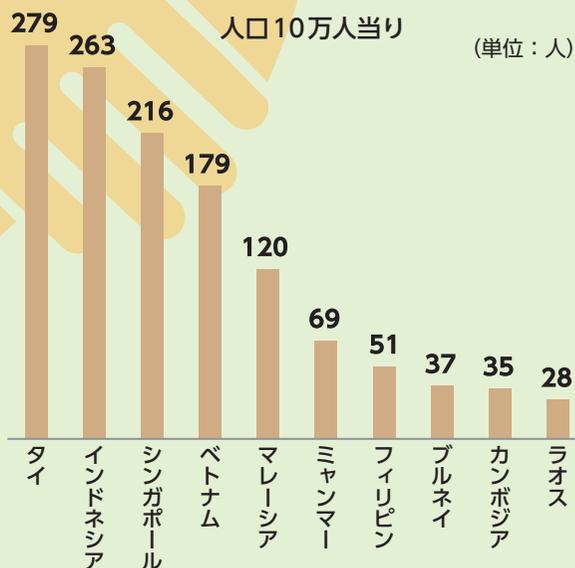
第35回 日本語スピーチ発表会（主催＝日外協、共催＝日本アセアンセンター、協力＝早稲田大学 国際学生友好会）が10月21日（木）に開催された。昨年はコロナ禍で、日本語スピーチ・コンテスト優秀者招へいプログラムそのものが中止となったため、2年ぶりとなる。

今回は初めて、発表者の自宅や職場のほか、それぞれの会場をオンラインでつないでいった。

日本語スピーチ・コンテストを開催できなかった国もあり、今回はカンボジア、インドネシア、ラオス、フィリピン、タイのASEAN 5カ国6人の代表がスピーチを披露した。

図表 ASEAN10カ国の日本語学習者数

国	学習者数 (単位：人)
インドネシア	709,479
タイ	184,962
ベトナム	174,521
フィリピン	51,530
マレーシア	39,247
ミャンマー	35,600
シンガポール	12,300
カンボジア	5,419
ラオス	1,955
ブルネイ	171



出所：国際交流基金「海外の日本語教育の現状 2018年度日本語教育機関調査より」
調査対象は「語学としての日本語教育を実施している可能性のある機関」の学習者

広がるネットワーク

開会挨拶に立った日外協・坂部隆専務理事は、関係者に感謝を伝えた。そして、1986年以来実施してきた本プログラム参加者の多くが、その後も日本や日本語と関わり続け活躍するなど、日本とASEANを結ぶ多様なネットワークが広がっていることを紹介。今回初となるオンラインでの開催が有意義な場となるよう願っていると述べた。

発表会を共催する日本アセアンセンター・平林国彦事務総長は、志の高い若い人たちとの交流の場に参加できた喜びを表明するとともに、貿易や投資、観光、人物交流の促進を通じて、ASEAN諸国と日本が共に発展できるよう尽力していきたいと語った。



画面左上から時計回りに、バブ・パンガンさん(フィリピン)、ナディア・ヌルハミダー・ヒダヤトさん(インドネシア)、マーニッサー・サイターニットさん(ラオス)、日外協・坂部専務理事(左)と中野主幹(右)、日本アセアンセンター・平林事務総長、桜美林大学・馬越教授、ドゥ・ピセイさん(カンボジア)、カノクボーン・ウィラッチパンさん(タイ)、画面中央ロビー・ジェン・タニヨさん(フィリピン)

勇気と思いやり

今回の6人のスピーチから大切な2つのことが伝わってくる。1つはあえて苦労に挑む勇気。そしてもう1つは家族や他の人々への思いやり。

講評に立った桜美林大学・馬越恵美子教授は、発表者一人ひとりのにこやかに語りかけ、健闘をたたえた。

続いて、「日本アセアンセンター事務総長賞」と「日外協会長賞」の発表。いずれも日本語の優劣ではなく、それぞれの団体の活動主旨に最も合ったスピーチを行った代表に贈られる。日本アセアンセンター事務総長賞には「外側を見ないで」で、家族のために奮闘するお母さんを称えたドゥ・ピセイさん(カンボジア)が、日外協会長賞には「新型コロナウイルスとの戦い」で医療従事者である自身の体験を語ったバブ・パンガンさん(フィリピン)が選ばれた。



平林事務総長からドゥ・ピセイさんへ



坂部専務理事からバブ・パンガンさんへ各賞の発表に続き、受賞者コメント